

平成22年度 学校評価自己評価書

愛知教育大学附属岡崎小学校

1 総括

(1) 教育目標

- ①生活のなかから問題を見つけ、自ら生活を切り拓いていくことのできる児童の育成。
→「生きる力」の育成（生活教育の発展と充実）
- ②経験や体験を重視し、事実をもとに問題の解決を図ろうとする児童の育成。
→問題解決能力の育成
- ③友だちの気持ちを思いやり、互いに磨き合おうとする児童の育成。
→共感的な人間関係の形成

(2) 中長期経営目標

- ・自由で自立した人格の育成と社会的責任の自覚を養う。
- ・児童の多様な能力に対応した教育を行うとともに、個性を尊重しつつ学力を伸ばす。
- ・大学と連携し、子ども一人一人の個性と生活体験を大切にした「生活教育」についての教育研究を行う。
- ・安全で安心な教育環境を整備し、安全・健康教育を進める。
- ・国立大学法人附属学校として、大学と連携した学校マネジメントを推進する。
- ・機能的な教育活動を行うとともに、教職員の職能向上に努める。
- ・社会と世界に開かれた学校づくりを進める。
- ・家庭、地域に学校の様子や状況について積極的に情報提供し、学校評価を教育活動に生かす。

(3) 短期経営目標（本年度の重点目標）

①学習指導

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・やる気と自覚、共感能力を大切にし、解決したい問題に対する問題解決力を育成する。
- ・児童英語の充実・改善を図り、積極的にコミュニケーションしようとする態度を育成するとともに、言語に関する能力や国際感覚の基盤を培う。

②研究

- ・創造的、協同的な問題解決学習を展開するなかで、ねばり強く創造的に解決する子どもの姿をめざす。特に、本年度は、かかわり合いを深める教師の営みのあり方を探る。

③教育実習

- ・教育実習生に対し、教育活動の基本的なあり方を具体的な実践を通して指導する。

④教育活動

- ・学校評価をもとにした改善点を点検しながら、よりよい教育活動をめざす。
- ・行事の精選・スリム化を図り、授業時間を確保する。
- ・勤務時間の短縮及び業務の精選・効率化を図り、教職員の健康維持を図るとともに、タイムマネジメントの意識を高める。

2 自己評価の実施体制

学校が経営目標を立て、具体的な実践を行い、その結果を次年度の学校経営方針に反映し、教育活動を改善するというPDCAのサイクルに基づく学校評価を実施する。この学校評価を継続的に改善していくためには、目標を適切に改善していくことが必要である。そのために、本校では学校全体の教育目標とともに、めざすべき成果やそれに向けた取組に関する中長期と単年度の目標を、昨年度より具体的に設定している。

本年度実施した評価項目については、短期経営目標（本年度の重点目標）をさらに具体化して設定したものである。昨年度の評価項目を継承し、継続的に評価することで、教育活動のさらなる見直しを図ろうと考えた。また、特別支援教育に対する取り組みについて新たに評価項目を設定し、一人一人に応じたきめ細やかな指導を進めていく方策を探っていくように項目設定を心がけた。

アンケート調査の実施については、①保護者 ②児童 ③教師を対象に行った。設問は20問とし、個人情報保護の観点から匿名性の担保に配慮した。

実施時期 7月1日（木）～15日（木）

Ⅲ 評価結果（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計の割合で判断した。）

100%～80%・・・A	80%～70%以上・・・B
70%～50%・・・C	50%未満・・・D

「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計の割合で判断した理由は、以下の3点である。

- ①「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりできていない」「できていない」のいずれかを選択する形で行っている。教育活動において、「よくあてはまる」の割合の多いことが挙育活動がうまく行われていることを示すと考えた。また、「あまりできていない」「できていない」の割合の合計が多い評価内容の原因を分析し、緊急性や重要度を吟味したうえで、教育活動に反映させたいと考えたからである。
- ②昨年度との傾向の違いを比較をするためにも、この方法をとった。
- ③評価対象となっている「保護者」「児童」「教師」の意識のずれからも、教育活動に対する意識や方法のあり方を探ることができると考えたからである。

Ⅳ 考 察

（1）全体評価

昨年度に引き続き、設問1「附属小学校は誇れる学校である」に対して、保護者・児童者ともに、90%を超えるA評価であったことや、そのあとに続く設問2「附属小学校は、子どもの自主性や主体性を育む教育を実践している」、設問3「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」においても同様の評価を得ていることは喜ばしいことである。**本校では、授業のなかで子どもたちが楽しみながら主体的に問題を解決できる力を身に付けさせることができるような授業づくりを行っている。設問4「授業づくりの工夫」は、それに相当するものであり、子どもの主体的な学びをめざして授業を積み重ねていることも、設問1・3に現れているのではないかと考える。**また、20項目の設問に対しての評価で、3者ともに、A評価が多く見られることは、**本校の教育方針、教育活動が認められていると考えられる。**

また、本年度新たに設定した評価項目、及び昨年度改善項目、目標値を設定した項目について、次のような結果であった。

＜本年度新たに設定した項目の評価結果＞

より深い子ども理解と個別指導	
設問項目	設問 6 スクールカウンセラー，アイリスパートナーの活用 教師： 今年度 B 70.0% → 目標値 A 80% 保護者： 今年度 B 73.9% → 目標値 A 80% 児童： 今年度 C 64.7% → 目標値 B 75% ※この項目については，今年度新設した評価項目であるため，数値比較はない。

本年度から，7名のアイリスパートナー（大学院生）が週1回ずつ来校し，子どもたちが困っていることなどの相談活動に当たるようにしている。**子どもたちの健やかな成長のために，どのような運用が有効なのかを探る1学期であった。そのため，運用の仕方自体を評価することは難しいと考える。**1学期は各学年の1クラスを中心に活動を始めたために，**どのような活動をしているのか，どのような目的で活動しているのかといったことが，子どもたちに十分伝わっていなかったと思われる。**今後は広報活動を行うとともに，子どもたちとの生活をさらに重ねることで，多くの子どもたちと接する機会を増やし，**相談活動や個に応じた支援を重ねていくことで，子どもたちをより深く理解するとともに，健やかな成長に寄与できるような運用を確立していきたい。**また，スクールカウンセラーは，保護者との相談活動を中心に行っている。保護者との相談活動は前面に出てくるものではないが，地道な活動が続いており，今後も申し出に応じて相談活動を進めていきたいと考えている。

＜昨年度の改善対策と今年度の結果＞

【昨年度の課題とその対策】

- ・ 基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組
- ・ 基本的な生活習慣の定着
- ・ 学校設備や教室環境の整備

（1）基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組

【昨年度の改善策】

基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組を充実させる。	
改善策	①あおいタイムの充実及び，授業でも基礎的な知識・技能を定着させる時間を確保するよう努める。 ②本校の研究成果を披露する授業のみならず，あおいタイムや基礎的な知識・技能を定着させる授業も学校公開日等で公開する。 ③全国学力状況調査で良い結果が出ていることを保護者会の場で説明する。 ④コンピュータをひとり調べで活用するだけでなく，一斉指導のなかで活用する場をもつ。 ⑤授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。

【本年度の取組と成果】

基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組	
設 問 項 目	設問 8 基礎的な知識や技能が身についている。
	教師： 昨年度 C 59.1% → 目標値 B 70% → 今年度 B 70.0%
	保護者： 昨年度 C 67.8% → 目標値 B 75% → 今年度 C 63.4%
	児童： 昨年度 A 88.3% → → 今年度 A 87.7%
	設問 11 コンピュータの使い方をてねいに教えてくれる。
	教師： 昨年度 D 9.1% → 目標値 C 50% → 今年度 D 10.0%
保護者： 昨年度 D 38.0% → 目標値 C 50% → 今年度 D 38.3%	
児童： 昨年度 D 43.7% → 目標値 C 50% → 今年度 D 36.8%	

・改善策①について

教師の意識は目標値に達しており，その重要性を認識し時間の確保はできていると考える。

・改善策②について

保護者の評価が昨年に引き続き低かった。授業参観では日程的に難しい面があり，あおいタイムの公開までは行うことができなかった。保護者から見ると，その成果について判断しにくい部分があると考え。そこで，あおいタイムの取組や成果を保護者にも広く知っていただくために，これまでのドリル学習に加え，その定着度を確認するような機会を設け，保護者にその成果をお知らせするような取組をしていきたい。そして，家庭との連携をとりながら，さらに成果を高めていきたい。

・改善策③について

学力調査の結果については，昨年度，結果分析を全校に配布し，A問題（基礎的・基本的な知識・理解を問題）やB問題（活用の力を問う問題）の正答率の高さをお知らせしたが，保護者会などで詳しく説明するまでに至らなかった。保護者会の時間も限られているので，学力調査の分析結果を目で見てもわかりやすくまとめ，再度配布するなど，本校の基礎的な知識や技能の定着状況を知ってもらう工夫をさらに重ねていきたい。

・改善策④⑤について

コンピュータの使い方については，昨年度立てた目標値には達することはできなかった。評価について1～3年生と4～6年生に分けて集計してみたところ次のようであった。

コンピュータの活用についての取組	
設 問 項 目	1～3年生
	教師： 昨年度 D 9.1% → 目標値 C 50% → 今年度 D 0.0%
	保護者： 昨年度 D 38.0% → 目標値 C 50% → 今年度 D 31.0%
	児童： 昨年度 D 43.7% → 目標値 C 50% → 今年度 D 17.0%
	4～6年生
	教師： 昨年度 D 9.1% → 目標値 C 50% → 今年度 D 22.0%
保護者： 昨年度 D 38.0% → 目標値 C 50% → 今年度 D 44.0%	
児童： 昨年度 D 43.7% → 目標値 C 50% → 今年度 C 53.0%	

上記のことから，学年が上がるにしたがってコンピュータの使い方を指導していることがわかるが，数値的には不十分であるので，今後の教育活動のなかで見直しを図っていきたい。ただし，情報教育という視点から考えると，コンピュータはその一つに過ぎず，図

書や聞き取りといった方法で情報を収集するといったことも重要な要素である。本校ではこうした方法を使っての一人調べも多く行っており、設問自体を情報教育といった視点で見直していった方が、本校の実態にあった調査項目であり、情報の収集・処理・共有・発信といった教育が情報教育であることから考えても妥当ではないかと考える。教師自身もこういった視点で情報教育について認識を深めるとともに、取組自体見直しを図っていく必要があると考える。

(2) 子どもたちの基本的生活習慣と規範意識についての取組

【昨年度の改善策】

子どもたちの基本的生活習慣と規範意識についての取組	
改善策	①給食の時間に栄養士を中心とした食べ方指導栄養指導を行う。 ②学級や児童会活動で、基本的な生活習慣や規範意識について振り返る場をもち、一人一人がめあてをもって行動できるようにする。 ③PTAと協力しながら、生活習慣や規範意識について啓発活動を行うことと、清掃活動に積極的に取り組む態度を培う。 ④登下校指導を行い、あいさつの励行や登下校時におけるバスマナーなど、子どもたちの生活のなかでルールやマナーについて考える機会をとらえ、学級活動や通学班会の場で継続的に指導していく。

【本年度の取組と成果】

基本的生活習慣定着についての取組	
設問項目	設問 13 食べ方指導，栄養指導などの給食指導 教師： 昨年度 C 63.6% → 目標値 B 75% → 今年度 A 85.0% 保護者：昨年度 B 73.1% → 目標値 A 80% → 今年度 B 76.6% 児童： 昨年度 A 80.6% → → 今年度 B 75.9%
	設問 15 あいさつ，時間，ものを大切にするなどの基本的生活習慣定着 教師： 昨年度 C 59.1% → 目標値 B 70% → 今年度 C 50.0% 保護者：昨年度 B 70.6% → 目標値 A 80% → 今年度 C 69.8% 児童： 昨年度 A 90.6% → → 今年度 A 88.3%
	設問 16 清掃指導 教師： 昨年度 C 77.3% → 目標値 A 85% → 今年度 B 70.3% 保護者：昨年度 C 55.7% → 目標値 B 70% → 今年度 D 49.4% 児童： 昨年度 A 87.9% → → 今年度 A 86.9%

・改善策①について

食べ方や栄養指導については、数値的にはおおむね向上傾向にあり、今後も引き続き食育を視野に入れた指導を心がけていきたい。特に、愛知学泉大学の研究成果（昨年度より本校6年生を対象に調査をしていただいた）をもとに、咀嚼の大切さを全校に拡げ、栄養面だけではなく食育にも取り組んでいきたい。

・改善策②③について

②③については、児童総会や親子清掃などを実施してきたが、設問問15・16について

は、本校において、C・D評価が多く見られる項目である。特に問題なのは教師や保護者の評価に対して、児童の評価が高いという点ではないかと考える。児童自身は「できている」と考えている姿が、大人から見ると不十分であるといった現れが、こうした評価につながっているのではないかと考える。このことは、子どもの意識にどう働きかけるかといった視点で指導の仕方を考える必要がある。家庭や学校が連携し、自由ななかにも節度が感じられるような基本的な生活習慣の定着に努めていきたい。

・改善策④について

通学班会などを通して、登下校の安全とマナーについては繰り返し指導を行っている。本年度は、バスマナーについて心配なバス停に定期的に教師が足を運び指導をした結果、子どもたちのマナーに対する意識が向上した。こうした取組をさらに他のバス停でも行っていきたい。また、父母会の通学安全部と協力し、登下校指導の回数も増やししながら、子どもたちの登下校の実態をさらにきめ細かく把握し、指導に役立てたい。同時に保護者にも実態を知っていただき、学校と家庭が一体となった具体的な指導内容を、通学安全部（父母会）からも発信していただけるように働きかけていきたい。

（3）子どもたちの安全のための、学校設備や教室環境整備

【昨年度の改善策】

子どもたちの安全のために、学校設備や教室環境を整える。	
改善策	①企画委員会や職員会の場で、学校設備や教室環境の点検を行い、優先順位を付け、大学に要望していく。 ②学期末に行う学校設備等の環境点検を念入りに行う。

【本年度の取組と成果】

学校設備や教室環境の整備	
設問項目	設問 17 安全に楽しく生活できるようね、学校設備や教室環境の整備 教師： 昨年度 B 72.7% → 目標値 A 80% → 今年度 B 70.0% 保護者： 昨年度 C 67.7% → 目標値 B 75% → 今年度 C 65.9% 児童： 昨年度 C 68.2% → 目標値 B 70% → 今年度 B 71.6%

・改善策①②について

保護者の評価が低く、改善が求められていることが読み取れる。様々な施設・設備が老朽化している点が大きな原因であると思われる。**現在までに、図書室の空調設備、カーペットの新調、トイレの洋式化への取組など、大学側への説明や要望により、少しずつ改善されている面もある。こうした施設・環境の整備状況についても保護者へ伝えていくような努力も学校として必要であると考え**。今後も安全性と先進性の観点で施設・設備の改善が必要であることを大学に理解してもらいながら改善要求をしていきたい。また、現在ある施設や設備を丁寧に使用すること・活用することも教育の一環として必要なことであると考え。こうした指導も基本的な生活習慣の定着と合わせて実施していきたい。

(2) 教師による自己評価

【Aのなかでも評価の割合が90%以上だった項目】

設問2	附属小学校は、子どもの自主性や主体性を育む教育を実践している。	→95.0%
設問3	子どもが学校へ来るのを楽しみにしている学校である。	→100%
設問4	子どもが楽しく学ぶことのできる授業づくりをしている。	→90.0%
設問10	子どもは英語活動に楽しく参加し、英語に親しんでいる。	→90.0%
設問12	学校給食は、安全面、栄養のバランス、味などの工夫がされている。	→100.0%
設問19	子どもが安心・安全に通うことができる学校である。	→90.0%

この結果から、附属小学校の職員は、自校の教育目標を理解し、子どもの自主性や主体性を育むための授業づくりに取り組んでいることがわかる。子どもたちが楽しく学びながら主体的に問題を解決していくなかでたくましく成長していく姿を願い、今後も授業づくりや各行事への取組みを価値あるものにしていきたい。また、食も含め、安心・安全な学校づくりを強く意識しながら教育活動を進めていることも重要であり、今後も継続していきたい。

【C・Dと自己評価した項目】

設問5	子どもの話をよく聞いたり日記をていねいに読んだりして、一人一人の子どもをとらえ、それをもとに学級づくり、授業づくりをしている。	→D 50.0%
設問11	コンピュータの使い方をていねいに指導している。	→D 10.0%
設問15	子どもは、あいさつ、時間を守る、物を大切にするなど、基本的な生活習慣が身についている。	→C 50.0%

1学期には研究協議会があることから、学級によってはコンピュータを利用する時間をもてなかったところもあろう。2学期以降の授業で対応していく必要がある。また、調査項目の設定の仕方を、情報教育といった視点から見直し、子どもが情報をどのように得て、互いに共有し活用（発信）しているのかといった調査をしていく必要がある。また、特に低学年においてコンピュータの利用率が低い（前述）。文字を打つことや検索といった機能については難しいであろうが、絵を描くソフトなどを利用して、コンピュータを使う楽しさを味わわせるようにさせていきたい。高学年については利用する機会が増えてはいるが、評価対象の三者ともが、評価が低い。毎週設定してあるコンピュータ室の利用時間を計画的に活用できるようにするとともに、プリンタなどのハード面での改善を図り、より使いやすい環境を整えていけるよう、大学へも働きかけていくことが必要だと考える。**設問5については、教師が現在の子ども一人一人を大切にしている姿に甘んじることなく、さらにきめ細かく対応し、質の高い授業をつくっていきたいという願いが込められている。そのためにも、日々の業務内容を精選し、子どもたちのために費やす時間を少しでも多く確保していこうとするタイムマネジメントの意識を教師自身が高めていく必要があると考える。**

(3) 児童による授業評価・満足度調査

【Aのなかでも評価の割合が90%以上だった項目】

設問1	附属小学校は、じまんでできる大好きな学校である。	→A	92.4%
設問3	附属小学校は楽しい学校である。	→A	93.3%
設問7	朝のスピーチで、上手に話をしたり、友だちの話をよく聞くことができようになってきた。	→A	90.2%
設問12	学校給食は、安全面、栄養のバランス、味などが工夫されている。	→A	90.2%

多くの子どもたちが、附属小学校を誇りにするとともに、学校へ行くことや授業を楽しむにしていることが読み取れる。授業の改善を今後も推進していくとともに、設問7からは、自分のことを知ってもらうことや友だちのことを知ることを通して、互いを理解するといったことも、子どもたちにとっては人間関係を形成していくうえで重要であると考えるので、相手の話を聴いて応える姿勢を今後も大切に育てていきたい。また、**設問1・3にて十分に満足していない、7～8%の子どもたちの実態もきめ細かくとらえていきたい。そして、全ての子どもたちが附属小学校を誇りに思い、楽しく学校生活を送れるように努めていきたい。**

【C・Dと評価した項目】

設問6	附属小学校では、アイリスパートナーやスクールカウンセラーに楽しかったことや、困ったことなどを話したりしたり相談したりできる。	→C	64.7%
設問11	先生は、コンピュータの使い方をていねいに教えてくれる。	→D	36.8%

アイリスパートナーの運用が本年度より始まった。運用の仕方を検討しながらの実施であるが、地道な活動を続けている。こうした活動がまだ子どもたちには十分には知られていない面があるので、運用方法を改善していくとともに、広報活動も進めていくことで、子どもたちの健やかな成長に寄与していきたい。

コンピュータ利用については、**評価項目自体の見直し**も進める必要がある。また、低学年のうちから、使用するソフトを工夫するなどして、**コンピュータに慣れ親しむような取組**を進めていきたい。

(4) 保護者による満足度調査

【Aのなかでも評価の割合が90%以上だった項目】

設問1	附属小学校は、誇れる学校である。	→A	94.4%
設問2	附属小学校は、子どもの自主性や主体性を育む教育を実践している。	→A	95.5%
設問3	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	→A	96.6%
設問4	附属小学校は、楽しく学べる授業づくりの工夫がされている。	→A	93.7%
設問7	朝の会のスピーチによって、子どもたちに「聞く・話す」力が育っている。	→A	92.0%
設問12	学校給食は、安全面、栄養バランス、味などの工夫がされている。	→A	94.4%

昨年度と同様の評価項目で、高評価をいただいた。本校の自主性や主体性を重視した教育に対して理解し、誇りに感じていただいていることがわかる。また、**設問1・3について、約5%の保護者の方が十分に満足されていないことがわかる。保護者会などでその原因をおうかがいするなどして、全ての保護者の方が安心して子どもたちを通わせることのできる学校をめざしていきたい。**

【C・Dと評価した項目】

設問8	あおいタイムや授業によって、子どもに基礎的な知識・技能の定着を図っている。	→C	63.4%
設問11	コンピュータの使い方をていねいに指導している。	→D	38.3%
設問15	子どもは、あいさつ、時間を守る、物を大切にするなど、基本的な生活習慣が身につけている。	→C	69.8%
設問16	子どもは、そうじがよくできる。	→D	49.4%
設問17	子どもが安全に楽しく生活できるように、学校設備や教室環境が整えられている。	→C	65.9%

本校の授業については高い評価であるが、基礎的な知識や技能の習得・コンピュータ利用については評価がまだ低い。清掃については、継続的に指導はしているが、その成果がなかなか現れていないのが現状である。**教師や保護者の子どもたちに求める姿と、子どもたちがめざす姿に差があることにも注目し、学校と家庭とで協力し取り組むようにしたい。**

(5) 成果と課題

- ア 今年度も「附属小学校は誇れる学校である」「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」などの意識が、教師・保護者・児童ともに高いことは誇らしいことである。この結果から、教育活動がおおむね認められているといえる。しかし、全ての子どもたちが附属小学校を誇りに思い、楽しく学ぶ学校にするためには、十分に満足できていない子どもたちや保護者の意見に耳を傾け、距離よい教育活動をめざしていきたい。さらに、設問1から5の評価のなかでは、教師の評価が保護者・児童に比べて、低い評価となっている。これは、学校の教育活動がより充実していきたいという教師の強い願いであると考えられる。今後も学校評価をもとにしながら、学校がリーダーシップをとり、子どもと保護者の意見に耳を傾け、教育活動をしていきたい。
- イ これまで行ってきた「スクールカウンセラー」の活動と、本年度より実施している「アイリスパートナー」についての本年度新たに設問6を設定した。教師・保護者の評価は70%以上であったが、児童の評価が64.7%とやや低い評価であった。特にスクールカウンセラーは、週1日ずつではあるが、どの学年でも活動をしているにもかかわらず、その認知度については低いことがわかる。**実施初年度ということで、その運用を模索検討している現段階でその効果を評価することはできないが、スクールカウンセラーのよりよい運用を大学と協議していくとともに、広報活動などもすすめて、子どもたちに活動を十分に伝える必要があると考える。**子どもたちの健やかな成長のための先進的な取組であるので、今後さらに運用方法を検討していく必要がある。
- ウ 昨年度の改善項目であった「授業づくりを見直すとともに、基礎的な知識や技能の習得を図る。」については、あおいタイムを中心に地道に活動した成果が、教師評価「C→B（本年度目標値達成）」、児童評価「A」からうかがえる。今後もあおいタイムを中心とした学習指導の方法や一人一人に合わせた教育活動を推進していくことで、良好な方向に進んでいくと思われる。「基本的な生活習慣（給食指導、あいさつ

・時間・物を大切に（清掃活動）の定着を図る。」について、給食指導では、教師（A 85.0%：本年度目標値達成）・保護者（B 76.6%：目標値まで3.6%）とも昨年度を上回る評価が見られる。児童の評価が若干減少傾向ではあるが、引き続き食育といった視点で指導を続けていく必要があると考える。**あいさつ・時間・物を大切に（設問15）と清掃活動（設問16）について、教師・保護者の評価（B～D）に比べ、児童の評価がいずれも高い（A）傾向にあった。これは、教師や保護者が願う姿と、児童自身のめざす姿に大きなずれがあるからであると考え。それぞれの意味やめざす姿について子どもと共有しながら学校と家庭が一体となって継続的に指導していく必要があると考える。**

エ コンピュータの活用については、昨年度と変わらず低い評価である。情報教育が今後期待される教育の一つであることを考えると、コンピュータの操作に慣れ親しむことは大切であると考え、本来の情報教育はそればかりではない。自分の必要とする情報を効率的に得たり、その情報を共有し発信するといった視点で情報教育を見直し日々の学習と結びつけて指導していく必要があると考える。**コンピュータの利用そのものは、1学期に十分に時間が確保できなかったこともあるので、2学期以後の授業のなかでコンピュータ活用の時間を確保し、一人一人の能力をとらえて指導する必要がある。**

(7) 改善策

スクールカウンセラーやアイリスパートナーの運用を充実させる。	
目標値	<p>設問 6 スクールカウンセラーやアイリスパートナーを活用し、より深く子どものことをとらえ、成長に役立てようとしている。</p> <p>教師 B 70.0% → A 80%</p> <p>保護者 B 73.9% → A 80%</p> <p>児童 C 64.7% → B 75%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・通信や掲示を使って、アイリスパートナーの活動を全校により知ってもらえるようにする。 ・担任とスクールカウンセラー、アイリスパートナーとの連携を充実させ、情報を共有しながら、子ども理解を深める時間を確保する。 ・大学の関係機関とも連携し、特別支援教育推進委員会において、それぞれの活動を振り返るながら、より効果的な運用を協議し実践する。

基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組を充実させる。	
目標値	<p>設問 8 基礎的な知識・技能の定着を図っている。</p> <p>教師 B 70.0% → A 80%</p> <p>保護者 C 63.4% → B 75%</p> <p>設問 11 コンピュータの使い方をていねいに教えてくれる。</p> <p>教師 D 10.0% → C 50%</p> <p>保護者 D 38.3% → C 50%</p> <p>児童 D 36.8% → C 55%</p>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・あおいタイムの充実及び、授業でも基礎的な知識・技能を定着させる時間を確保するとともに、その成果を児童自身が確認できる機会を設ける。 ・本校の研究成果を披露する授業のみならず、あおいタイムや基礎的な知識・技能を定着させる授業も学校公開日等で公開する。 ・全国学力状況調査で良い結果が出ていることを保護者会の場で説明する。 ・自分の必要な情報を効率的に得たり、共有したり、発信したりするといった情報教育の考え方を教師が共通理解し、毎日の授業と結びつけて指導にあたる。 ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。
-----	---

子どもたちの基本的な生活習慣を育む。	
目標値	<p>設問 15 あいさつ、時間を守る、物を大切にするなど、基本的な生活習慣が身についている。</p> <p>教師 C 50.0% → B 70%</p> <p>保護者 B 69.8% → A 80%</p> <p>設問 16 子どもは、そうじがよくできる。</p> <p>教師 B 70.0% → A 85%</p> <p>保護者 C 49.4% → B 70%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や児童会活動で、基本的な生活習慣や規範意識について考える場をもち、その意味や必要性に対する意識を子どもの中に育てていく。 ・帰りの会などで、一日の行動を振り返る場をもち、一人一人がめあてをもって行動できるようにする。 ・P T Aと協力しながら、生活習慣や規範意識について啓発活動を行うことと、清掃活動に積極的に取り組む態度を培う。 ・登下校指導を行い、あいさつの励行や登下校時におけるバスマナーなど、子どもたちの生活のなかでルールやマナーについて考える機会をとらえ、学級活動や通学班会の場で継続的に指導していく。

子どもたちの安全のために、学校設備や教室環境を整える。	
目標値	<p>設問 17 安全に楽しく生活できるように、学校設備や教室環境が整えられている。</p> <p>教師 B 70.0% → A 80%</p> <p>保護者 C 65.9% → B 75%</p> <p>児童 C 71.6% → B 80%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会や職員会の場で、学校設備や教室環境の点検を行い、優先順位を付け、大学に要望していく。 ・学期末に行う学校設備等の環境点検を念入りに行う。

以上のような改善策を年度当初に職員会を通じて全職員に共通理解を図り、子どもたちが明るく健やかに成長していけるよう、教育活動の充実に努める。